

日韓印刷学術・文化交流25年（第1報）

－1980年から1997年まで－

国際印刷大学校

木下 堯博

1、 概 要

1980年4月、シカゴでの **print80** (1) から帰国して間もなく、韓国の国立釜山工業専門大学の盧殷植学長と金成根印刷工学科主任教授の連名で「印刷技術教育に関する両国の共同研究と友好促進」のため招請状が来た。そのため1980年7月17日から22日まで韓国に滞在し、印刷に関する講演と視察を行ったのが韓国との印刷学術・文化交流の出発点であった。講演は同大学（釜山市）の演題「印刷史」と大韓印刷文化協会（ソウル市）演題「写真製版の動向」で行い、学術・文化交流が始まった。(2)

釜山工業専門大学は2年制の専門大学であり、日本の短期大学に相当する。1978年に朴大統領の一声で印刷工学科がこの大学に設置された。それまでは印刷に関する高等教育機関が無かったため、同大学の応用化学科から金成根教授が主任教授として着任した。金教授らは教材収集のため来日し、著者の自宅にも来られ、印刷の将来に関し討論を続けた。また、著者らの上梓した「基礎写真製版」などを教材として利用するため韓国語に翻訳し、教科書として用いた。金成根教授はたびたび来日し、印刷課程のカリキュラム・教授法などを研究して韓国に導入した。

著者は釜山と福岡は距離的にも近いことから、ほぼ毎年のように渡韓し、印刷や同関連分野に関する学術・文化交流を深めてきた。

2005年7月、日韓印刷学術・文化交流25年を記念して、ソウル郊外の安山市にある斗山印刷で「世界の印刷業界のIT化についての展望」(3)を講演する機会を得たので、著者の25年間の日韓印刷学術・文化交流の概要と今後のあり方などに関しまとめた。折しも、**print05**が9月に行われるのでこれらの報告も含めて年代別にしてまとめた。

2、 日韓での印刷交流（前期）

1982年 **drupa82** があり、これを機会に同年7月福岡市のサンハクトホテルで九州産業大学主催として「国際印刷教育会議」を開催した。この会議には韓国から多くの参加者があり、各国の印刷教育の研究動向が発表された。著者は **drupa82** の帰朝報告を行った。(4) 1988年オリンピックの年に、オリンピックの写真画像を伝送・製版する研究として「高精密カラーデザイン画像の伝送」と題し、釜山開放大学（大学名称を変更し、4年制となる。）で報告した。この機会に伽倻山にある海印寺の八万大蔵経を見学した。

1994年8月、韓国印刷学会と日本の印刷教育研究会とが釜山工業大学（大学名称変更・大学院印刷工学修士課程）での **Joint Meeting** 行われ、「印刷教育の変遷」について報告した。その他、8編の論文が日本語、韓国語、英語で発表され、活発な討論が行われた。(5) 1993年8月～11月、大田市で **EXPO93** が行われた時、韓国造幣印刷局からの招待で

同年9月に訪問した。紙幣の偽造防止に関する新しい技術や記念パレードではグーテンベルグの平圧式印刷機とコンピュータ（DTP）が並列して展示されたデモンストレーションがあった。このEXPOを機会に江華島の歴史館を訪問した。八万大蔵経の製作された場所でもあり、金属活字もグーテンベルグより200年前に作られた記念の地でもあった。(6)

1995年8月、日韓印刷交流でお世話になった金成根教授の退官式と送別会が釜山文化会館で8月26日行われ、日本から参加した。1987年の印刷工学科の設立から18年間、2年制から4年制の大学に、さらに修士課程の設立、韓国印刷学会の会長など韓国の印刷界のため貢献し、多くの業績を残された。

1996年2月6日、金成根先生（釜山工業大学名誉教授）のご子息（金東君氏、小森コーポレーション(株)勤務）から先生の突然の訃報がもたらされた。2月7日カメラライオンに乗船し、家内と葬儀に出席した。小雪の降りしきるなか、孫世模講師（印刷工学科第1回卒業生）の司会で大学葬が行われた。両国の印刷教育の発展のために私財を投じて尽くされた先生のご逝去を謹んでお悔やみ申し上げた。(7)

1997年4月、韓国印刷学会での招待講演に招かれ、「デジタル導入と将来展望」に関し、ソウル市で発表した。このとき、長年の同学会への貢献により韓国印刷学会功労賞を頂いた。同年9月29日～30日、ドイツと韓国のユネスコの招待で、東西の印刷史に関するシンポジウム「International Symposium of the Printing History East & West」がソウル市で開催され「Early Printing History in Japan」(8)を発表した。この論文はマインツ大学で刊行しているGutenberg Jahrbuch 1998に掲載された。このシンポジウムは印刷に関するユネスコの世界遺産の「Memory of the World」の一環として行われ、東西の印刷文化に業績のあった学者20名が招かれ、歴史学、書誌学、科学史、考古学、印刷史の研究者がアメリカ、ドイツ、フランス、中国、韓国、日本から参加していた。引続いて10月1日より会場を清州市に移し「International Forum on the Printing Culture」のシンポジウムが持たれた。(9)

詳細はそれぞれの参考文献を参照して下さい。

続く

参考文献

- (1) 木下 堯博；日本印刷年鑑（1980）
- (2) 木下 堯博；印刷情報40[9]（1980）
- (3) 木下 堯博；世界の印刷業界のIT化についての展望・要旨（2005年7月30日）
- (4) 木下 堯博；印刷情報42[8]（1982）
- (5) 木下 堯博；プランナー31[10]（1994）
- (6) 木下 堯博；印刷情報52[11]（1993）
- (7) 木下 堯博；印刷教育研究[11]（1996）
- (8) Akihiro KINOSHITA；Gutenberg Jahrbuch(1994)
- (9) 木下 堯博；印刷情報58[1][2]（1998）

（2005年7月25日記）